（2年　地学）

日本の気象の特徴（春～夏）

No. 35

◎大気の動き

大気の厚さは地上数百 km あるが、主な気象現象が起きるのは、地上［　　］km 程度である。

地球の半径(約 6400km)などに比べてもとてもうすい。

◎春

［　　］と低気圧が、日本付近を交互にやってきて、

［　　］から［　　］に次々と通り過ぎる。４～６日周期で天気が変わる。

・高気圧が近づく → 天気が［　　］くなる。温暖で乾燥した日になる。

昼夜の温度差が［　　］くなる。

・低気圧が近づく → 天気が［　　］くなる。

天気が［　　］に変わる

◎つゆ

［　　］気団(低温・［　　］)と［　　］気団(高温・［　　］)

の勢力がつり合い、東西に［　　］(［　　］)ができる。

大雨で土砂災害や洪水の被害が出るが、［　　］の時は深刻な水不足になる。

［　　］になる

◎夏

［　　］気団(高温・［　　］)の勢力が強い。

→ 高温で湿度が［　　］い。

［　　］の季節風が吹く。

日照時間が［　　］く、日差しが［　　］い。

雲(積乱雲)の発達で、［　　］になることも。

※［　　］気団の勢力が弱まらないと、［　　］になる年もある。

蒸し暑い晴天がつづく